



第10回 ウォーターワーク・コンペティション at Lake NOJIRI 水難救助犬・競技会 第2回水難救助犬認定審査会



とき 2007年10月14日(日)

ところ 長野県信濃町 野尻湖



主催 J.W.W.A.(日本ウォーターワーク協会)
<http://jphal.net/jwwa/>



協力 レストラン フレンドリー・ドッグファン・JWWA妙高・JWWA十日町・JWWA西湖・JWWA琵琶湖

大会運営本部 <http://jphal.net/nsdrc/>

予告

2008年1月20日
2008年2月17日
2008年3月16日

SnowDog



フェスタ in 妙高杉ノ原

主催: SnowDogフェスタin妙高杉ノ原実行委員会 共催: 杉野沢観光協会

2007 ウォーター・ワーク・コンペティション at Lake NOJIRI

第10回 水難救助犬 競技会 大会報告

第2回 水難救助犬認定（内水面・湖沼）審査会 結果報告

ウォーターワークコンペティション運営本部長 妙高動物病院 星 博夫

大会当日は、爽やかに晴れ上がった10月14日（日）に「第10回水難救助犬競技会」

（The 10th Annual Water Work Competition at LAKE NOJIRI）と第2回水難救助犬認定（内水面・湖沼）審査会（2nd Annual Water Rescue Dog Certification Examination）が、主催：日本ウォーターワーク協会（J.W.W.A）（会長 千葉 路子）、協賛：DOG・GARDEN、DTS ケンネル、フレンドリー、妙高動物病院

協力：JWWA 琵琶湖（濱田由美子）・西湖（大石みち子）・妙高（星博夫）・十日町（西方真）の各支部によって、長野県信濃町菅川「野尻湖」を会場として開催されました。ちなみに気温 17℃、水温は 19℃でした。開会の挨拶・ミーティング・体操をして、午前9時30分にオープンクラスから競技開始です、また、会場近くでは、長野県のウェークボードの大会も開催されていて、賑やかで、盛況な大会となりました。

オープンクラスの競技は以下の順番で開始されました。

種目1は、シングル・レトリートリング（単純な物品持来）（難易度 3、満点30ポイント）

犬とハンドラーは水場に向っています。

この時、ハンドラーは手に物品を持ち、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

競技リーダーの指示で、ハンドラーは10m沖に物品を投げます。

競技リーダーの指示で、ハンドラーは犬を沖に出します。

犬は物品に向って泳ぎ、優しく物品をくわえて保持し、岸にいるハンドラーに向って運搬します。

競技リーダーの指示でハンドラーは物品を渡すコマンドで犬から物品を受け取ります。

種目2は、サーチ・レトリートリング（探索を伴う物品持来）（難易度 3、満点30ポイント）

犬とハンドラーは水場に背を向け岸に向っています。

この時、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

競技リーダーが水中に浮く物品（ダンベル、救命胴衣、ボート用の座布団等）を岸から15m沖に浮かべます。

競技リーダーの指示で、ハンドラーと犬は水場に向って座りなおします。

競技リーダーの指示で、ハンドラーは犬を沖に出します。

犬は誰の助けも借りずに物品の位置を突き止め、物品に向って泳ぎ、優しく物品をくわえて保持し、岸にいるハンドラーに向って運搬します。

競技リーダーの指示でハンドラーは物品を渡すコマンドで犬から物品を受け取ります。

種目3は、ストレンジャー・レスキュー（他人の救助）（難易度 5、満点50ポイント）

犬とハンドラーは水場に向っています。

この時、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

水場の15m沖に溺者役のアシスタントがいます。

競技リーダーは「準備ができましたか」と聞き、その後「開始」の合図を出します。

犬は1分以内に犬だけで水場に出ていき、沖合の溺者役を救助し、岸まで牽引します。

犬の足または溺者役のアシスタントの体が水底についたところで競技終了です。

種目4は、テーク・ア・ボート・イン・トゥー（ボートの牽引）（難易度 4、 満点40ポイント）

犬とアシスタントは水場に向っています。

犬はヒールポジションでアシスタントの横に座っています。

ボートを漕ぐ人と共にハンドラーはボートに乗って 15m沖に出ています。

ボートには3mのロープがくくりつけられています。

競技リーダーはすべての準備を確認した後、「はじめてください」の合図を出します。

アシスタントはボートにいるハンドラーに向かって陸から犬を送りだします。

犬がボートまで泳いできたら、ハンドラーはロープの先端を犬にくわえさせます。

ハンドラーはコマンドを出し、犬にボートを陸まで牽引させます。

ボートが水底に触れたとき、または陸に上陸できる距離まで来た所で競技終了です。

ハンドラーは犬に1分以内にボートの牽引を開始させます。

種目5は、スイム・ウィズ・ハンドラー（ハンドラーとの遊泳）（難易度 4、 満点40ポイント）

犬とハンドラーは水場に向っています。

この時、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

競技リーダーの指示で、犬はヒールポジションでハンドラーと一緒に水場に出て行き、そのまま水の中を進み、泳げる深さに来たところで、水泳を開始します。

その後、さらに 10m 沖まで泳いで行きます。

10mの水泳の後、犬とハンドラーは岸へ方向転換し、犬はハンドラーのコマンドによってハンドラーの先を泳ぎハンドラーを岸まで牽引します。この時ハンドラーは泳いではいけません。

犬の足が水底についたところで競技終了です。

種目6は、コンプリヘンシブ（全体の印象）（難易度 1、 満点10ポイント）

種目と種目の間に犬とハンドラーがどのような振る舞いをしたか、または犬がどれだけ協力的に、あるいは積極的に集中して競技に参加したかを審査します。

以上の6種目で競技が進められました。

オープンクラスに参加するためには、過去2年以内に S&R（スイム・アンド・レスキュー）テストに合格していなければなりません。

得点は、200ポイント満点、オープンクラスの合格点は100ポイント、160ポイント以上で、エキスパートクラスへの出場権が付与されます。

オープンクラス成績（入賞チーム）

順位	ポイント	No	ハンドラー名	愛犬名	犬種	住所
1	164	O-4	前村 真由美	ベリー	ラブラドル・R	大阪府
2	154	O-5	片井 加代	チョイス	ラブラドル・R	和歌山県
3	103	O-7	小林 晃	ビック	ラブラドル・R	新潟県
4	88	O-3	佐藤 秀美	心	レオンベルガー	長野県

各チームは肅々と競技種目を遂行し、充実した内容を残しました。

みなさん、頑張りましたね。！！！！

15分間の休憩の後、引き続きエキスパートクラスの競技開始です。

種目1 レイ・ダウン（グループでのフセてマテ）（難易度 2、満点20ポイント）

競技リーダーがハンドラーと犬を位置につかせます。

各競技者との間隔は5mで、水場から5m離れています。

競技リーダーの指示により、ハンドラーは犬にコマンドあるいはハンドシグナルで犬にフセをさせ、待機します。

その後ハンドラーは犬をフセの状態に残し、競技リーダーの所へ集まります。最高3分間フセマテをしています。

競技リーダーがハンドラーに競技の仕方などを説明している間、犬はフセをして待ってなければなりません。

競技リーダーの指示により、ハンドラーは犬の所へ戻ります。

そこでコマンド「スワレ」を与えます。犬が座ったところで、この競技は終了です。

種目2 レトリブ・フロム・ブリッジ（桟橋からのレトリビング）（難易度 3、満点30ポイント）

犬とハンドラーは桟橋にいます。この時、ハンドラーは木製のダンベルを手にして、

犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

水の深さは、犬が飛び込んだ時、水底に足がつかないほどの深さが必要です。

競技リーダーの指示により、ハンドラーは10mほど沖に物品を投げます。

競技リーダーの指示によってハンドラーは犬を水に出し、レトリブさせます。

犬は桟橋から飛び下り、物品をくわえ陸へ運搬します。

ハンドラーは犬が泳いでいる間に岸に戻り、犬を迎えます。

競技リーダーの指示でハンドラーは犬から物品をもらいます。

この時犬はヒールポジションでスワレの状態です。

種目3 ロープ・キャリング・アンド・プリング・ア・ボート（ロープの運搬とボートの牽引） （難易度 3、満点30ポイント）

犬とハンドラーは水場に向っています。

この時、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

ハンドラーは端に結び目のある、およそ3mのロープを持っています。

15m沖にはアシスタントとボートを漕ぐ人がボートに乗って待機しています。

競技リーダーの指示により、ハンドラーはコマンドで犬にロープをくわえさせ、ボートに乗っているアシスタントのところに運ばせます。

犬がボートまで泳ぎ着いたら、アシスタントはロープの端をボートにくくりつけるか、手で持っています。

その後、犬はロープをくわえたまま陸までボートを牽引します。

ボートが水底につくか、犬の足が水底につく所まできたら、競技は終了です。

種目4 ディレクテッド・ライフライン・プリング（方向指示を伴う浮輪の運搬・牽引） （難易度 5、満点50ポイント）

犬とハンドラーは水場に向っています。

この時、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

ロープの端に結び目のある、3mのロープでくくりつけられた浮輪があります。

2人の溺者役のアシスタントが15m沖にいます。2人の間隔は15mです。

競技リーダーはどちらの溺者を岸に連れてくるか、ハンドラーに指示を出します。

ハンドラーのコマンドで犬はすばやくロープをくわえ、指示された方へ泳いでいきます。

犬が溺者のところへ着いたら、溺者は浮輪をつかみ、陸まで牽引してもらいます。

浅瀬に着いたところで競技は終了です。

そこでハンドラーが犬と牽引された溺者を迎えます。

種目5 アンダーウォーターレトリビング（水底からの物品持来）（難易度 3、満点30ポイント）

犬とハンドラーは水場に向っています。

この時、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

ハンドラーはアンダーウォーターレトリビング用の水に沈む物品を手にしています。

競技リーダーの指示でハンドラーと犬は一緒に水辺へ出て行きます。

犬の腹に水があたる程度の水深まで進んでください。そこで犬は立った状態で待っています。

ハンドラーは犬から1m先に物品を投げ、物品が沈んだら、コマンドで犬に探させます。

犬は水中に沈んだ物品を探しあて、ハンドラーの所へ持って行きます。

3分以内に3回のレトリビングを行うことができます。

ハンドラーの手に物品が渡ったところで競技終了です。

種目6 ディレクション・レトリビング（方向指示を伴うレトリビング）（難易度 3、満点30ポイント）

犬とハンドラーは水場に向っています。

この時、犬はヒールポジションでハンドラーの横に座っています。

15m沖に2つの同じ物品（パドル、救命胴衣、フロート等）が15mの間隔で浮いています。

競技リーダーがどちらの物品を先に持ってくるか指示を出します。

競技リーダーの指示で、ハンドラーは犬を沖に出します。

犬は物品に向って泳ぎ、優しく物品をくわえて保持し、岸にいるハンドラーに向って運搬します。

競技リーダーの指示でハンドラーは物品を渡すコマンドで犬から物品を受け取ります。

残りの物品もレトリビングして競技は終了です。

種目7 ライフセービング・フロム・ボート（ボートからの救命）（難易度 5、満点50ポイント）

15m沖のボートに、犬・ハンドラー・溺者役のアシスタント・ボートを漕ぐ人が乗っています。

競技リーダーは、ハンドラーが位置についたら、溺者役が水の中へ入るよう、合図を出します。

溺者役はジャッジから見える場所に浮いています。

ハンドラーはコマンドで犬に水中へ飛び込むよう指示を出します。

犬は溺者役を見つけボートあるいはいちばん近くの陸まで牽引します。

牽引中は溺者役は泳いではいけません。

溺者役がボートについた時、あるいは犬の足がつく浅瀬まで牽引されたところで競技終了です。

以上の7種目で競技が行われました。

オープンクラスで160ポイント以上取得していないとエキスパートクラスには参加できません。

得点は、240ポイント満点、エキスパートクラスの合格点は130ポイント、190ポイント以上で認定です。

また、2年間で130ポイント以上取得できない場合は再度オープンクラスで競技しなければなりません。

エキスパートクラス成績（入賞チーム）

順位	ポイント	No	ハンドラー名	愛犬名	犬種	住所
1	206	E-2	荒井 央	パール	フラットコーテッド・R	長野県
2	194	E-3	阿部 由美	ピンク	ニューファン	東京都
3	170	E-1	野崎 英博	エルマーナ	ラブラドル・R	長野県
4	141	E-4	前村 真由美	ベリー	ラブラドル・R	大阪府

オープンクラス全チームとエキスパートクラスの1チームが終了したところでランチタイムとなり、レストラン「フレンドリー」でおいしい昼食を摂り、休憩タイム。
午後1時から、エキスパートクラスの残りのチームが競技再開です。
そして、全チームが終了し、15分間の休憩後に第2回水難救助犬認定（内水面・湖沼）審査会が始まりました。

服従試験から開始です。

最初の科目は全員で

種目1 レイ・ダウン（グループでのフセてマテ）（難易度 2、満点20ポイント）

次に各チーム毎に下記科目を淡々とこなして行きます。

種目2 レトリブ・フロム・ブリッジ（桟橋からのレトリビング）（難易度 3、満点30ポイント）

種目3 アンダーウォーターレトリビング（水底からの物品持来）（難易度 2、満点20ポイント）

種目4 スイム&レスキュー（水泳と救助）（難易度 3、満点30ポイント）

100点満点中80点獲得で服従試験合格となります。

次に実技試験開始です。

はじめにライフセービング（人命救助）です。

溺者役のヘルパーを2名以上救助します。（遭難状況を想定したものです）

1級は意識不明で水面に浮いている他人の溺者を色々な手段を使って救助します。（難易度 9、満点90ポイント）

2級は友人・知人を色々な手段を使って救助します。（難易度 6、満点60ポイント）

3級は本人・家族を色々な手段を使って救助します。（難易度 3、満点30ポイント）

最後は口頭試験（難易度 1、満点10ポイント）です。

実際の遭難現場を想定した質問がされ、それに対する対処法を答えます。

実技試験1級は100点、2級は70点、3級は40点満点で、各々80パーセント獲得で合格となります。

水難救助犬認定（内水面・湖沼）試験合格チーム名簿

級	ハンドラー名	愛犬名	犬種	住所
1	小林 晃	チェル	ラブラドル・R	新潟県
2	星 奈津子	凜	レオンベルガー	新潟県
3	阿部 由美	ピンク	ニューファン	東京都

今年はいじめて1級合格チームが現れ、昨年の課題であった、要救助者の着衣等を直接くわえて、岸まで運んでくることのできるようになりました。

また、認定試験合格者には認定証を認定犬には水難救助犬のベスト（有料頒布）と合格各級のパッチを進呈しました。

大会本部長 星 博夫

審査員 千葉 路子

競技リーダー 西方 真

溺者ヘルパー 大石みち子、濱田由美子、宮下咲良、阿部克由、他多くのみなさんの協力を頂きました。

